

東日本 APM ニュース

ASSOCIATION OF PLASTICS MOLDERS, EAST JAPAN

第485号 2015. 2/10

一般社団法人 東日本プラスチック製品工業協会
 東京都中央区築地3-12-5 築地小山ビル TEL 03(3541)4321
 URL:http://www.ejp.or.jp FAX 03(3541)4324
 発行人 高橋 廣

目 次	
平成27年新年賀詞交歓会賑やかに開催…… 1	量から質への転換(四季) …………… 5
全日本プラスチック製品工業連合会 賀詞交歓会… 3	事務局レポート…………… 6

平成27年新年賀詞交歓会 賑やかに開催

“自分以外の周囲の人たちが豊かになるように考える「利他の心」が大事”



大野会長挨拶

平成27年1月15日(木) 上野精養軒3階「桜の間」にて恒例の新年賀詞交歓会が官公庁、関連業界団体等多くのご来賓をお招きし、大勢の会員がお迎えし賑やかに開催されました。

新春講演会では、三菱UFJ信託銀行の荒 和英先生より「平成27年を占う～日本はデフレから脱却できるか?」と題し、資金証券まわりのプロが有する様々な見方、分析についてテンポ良い語り口で講演を戴きました。参加者から大変興味深く拝聴した旨、高評価を戴きました。

その後、会員企業の業績に大いに寄与した貢献者2名への表彰式が行われました。

17時からは新春祝賀会が始まり、当協会の大野

泰昭会長から以下の挨拶がありました。新「皆様には謹んで新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は、会員の皆様はじめ関係官庁、業界団体さらに多くの皆様には格別なるご支援を賜り誠にありがとうございました。本年も宜しくお願ひ申し上げます。

昨年2014年は、景気に関し三つの誤算があったとのことです。

一つ目は個人消費が思わぬ失速をした。

二つ目は内需のたつきを外需で補えなかった。

三つ目は物価の上昇に賃金の伸びが伴わず回復がもたついた。

一方、2015年の環境は以下三つのことから見て悪くないそうです。

一つ目は原油の値下がり。

二つ目は賃金のペースアップをする企業が多い。

三つ目は民間エコノミストの予測平均では、実

質成長率が14年度のマイナス0.6%から15年度は1.6%に回復する。



新春講演会

安倍政権による三つの確実な成長戦略の実行により経済発展を期待したいと思います。

当工業会の重点事業である能力開発・技能向上の推進では、技能検定委員会の須崎委員



貢献者表彰式

長並びに委員の皆様のご努力により多くのプラスチック成形一級並びに二級技能士が誕生しました。

東日本プラスチック製品協同組合(嶋田理事長)におきましても会員の皆様へ様々な物品斡旋事業を実施して参りました。

また、昨年は会員減少に対して対策委員会を設置して副会長はじめ主要な理事の皆様にも集まっていたいただき、数回協議をさせていただきました。今年も引き続き実施させて戴き、良い対策案を出していきたいと思ひます。

話は変わりますが、京セラ名誉会長の稲盛さんの話が新聞に載っておりました。2010年2月に経営破綻した日本航空の会長に就任されましたが、着任するまでは日本航空は嫌いで 全日空しか乗らなかったそうです。航空会社は保守点検をして安全に飛ばしていく産業であると思っていたが、着任してみると究極のサービス産業だと気が付いたそうです。

そこで「客室乗務員の皆さんの接客態度でまた乗ってくれるかどうかが決まるのですよ」と懇々と話をしていたそうです。その後、客室乗務員に笑顔が戻り、一生懸命に考えてお客様に接するようになり、がらりと業績が良くなっていったそうです。

つまり、経営が厳しい地方の中小企業でも創意

工夫がカギになります。現在のビジネスをこのまま続けて良いのか、通りいっぺんのやり方でなかなか利益がでないかと嘆いていてもうまくいかない、どうやったら利益が出るか考えて工夫しないといけない。

私がもしラーメン屋ならおいしいラーメンを作るために常に工夫し努力する。

「ラーメンとはこんなものですよ」というのではなく、よそのラーメンを食べその味を出そうとすれば もっと良いものができる。自らの利益をただ追求するのではなく 自分以外の周囲の人たちが豊かになるように考える、利他の心」が大事だと仰っています。

「利他の心」とは自らの利益を追求するのではなく他人の利益を図ろうという考え方ですが、それをベースに経営をしている会社は 非常に順調にしているそうです。

我々の業界も、「利他の心」を大事にして会員各社が努力していくことにより一層の飛躍を志していきたいと思ひます。平成27年が我々業界にとって良い年になることを信じて事業経営に邁進していきたいと思ひます。」

続いて来賓を代表し関東経済産業局の梶田製造産業課長様から以下の祝辞を戴きました。

「新年あけましておめでとうございます。東日本プラスチック製品工業協会の新年賀詞交歓会が盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。また、日頃から様々な活動を通じて業界発展のために尽力されている貴協会に対し敬意を表したいと存じます。



祝辞 梶田製造産業課長様



新春祝賀会風景

昨年の管内経済を顧みますと、景気に持ち直しの動きが見られる中、内需型の中小企業・小規模事業者の皆様を中心に、原材料や電力料金等が高騰し価格に転嫁できないという声や景気回復が未だ実感できていないとの声も聞かれました。これらは、相対的に経済動向が好転する中であって、不安要素として顕在化している課題かと思えます。

そのような課題を克服し経済の好循環につなげていくため、当局としましても、昨年9月に設置されたまち・ひと・しごと創生本部の下、特に「しごと」の観点からの取組、昨年12月27日に閣議決定された「地方への好循環拡大に向けた緊急経済対策」を始めとする施策を積極的に展開してまいります。また、今年に入り平成26年度補正予算案、平成27年度予算案がそれぞれ閣議決定されました。製造産業課におきましては、中小企業の皆様への技術開発支援、具体的には「戦略的基盤技術高度化支援事業」（いわゆるサポイン事業）を柱として支援させていただいておりますが、来年度予算案にも計上されておりますので、活用を検討していただければと思います。

また、当局では、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの波及効果を東京地域にとどまらず日本全体に広げるべく、昨年7月に「地域活性化のためのおもてなし戦略プラン」の中間とりまとめを行い、9月には着実に進展するためにタスクフォースを立ち上げたところでございます。日本ならではの高度な技術を活用し、日本の魅力を発信する大きなチャンスでありますので、皆様におかれましても、新たな製品、技術開発につながる具体的な取組を期待するところでございます。

私ども関東経済産業局としましては、中小企業の皆様を中心とした地域経済発展のため、職員が率先して地域の現場に足を運び、地方自治体、産業支援機関、金融機関等の関係機関との連携を最大限に活かしながら、施策を進めてまいります。皆様には、忌憚のないご意見やご要望をお聞かせいただければ幸いです。

最後になりますが、貴協会の益々のご発展とご臨席の皆様のご活躍、ご健勝をお祈りいたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。

～ 全日本プラスチック製品工業連合会 賀詞交歓会 ～

～ 「仕事の絶対量の確保」と「安定した収益の確保」を目指して ～



挨拶する川壽会長

平成27年1月29日(木) 全日本プラスチック製品工業連合会の新年賀詞交歓会が第一ホテル東京で開催されました。経済産業省の茂木化学課長様はじめ業界関連団体、企業等多くのご来賓と連合会傘下の四地区工業協会の役員並びに会員約90名が出席し開催されました。席上、川壽貞藏連合会長からは以下の挨拶がありました。

「新年明けましておめでとうございます。皆様にはお健やかに新年をお迎えになられましたことお慶び申し上げます。

経産省様及び関連業界の皆様方、そして会員の皆

様方には日頃より当連合会の事業、活動に対しまして何かと暖かいご指導、ご支援、ご協力を賜っておりますこと厚く御礼申し上げます。

さて、我々が一番興味を持っている我が国の経済ですが、昨年的一年は、「長らく続いたデフレ経済からの脱却」を目指して、政府は超金融緩和政策を採り、通貨を円安に導き、株式市場に活気を取り戻させたこと、また、大企業の収益を好転させたことはアベノミクスの成果として評価してよいのではないかと考える次第であります。

しかし一方では、①消費税増税後の個人消費の回復の鈍さ、②円安にも拘わらず輸出が伸びなかったこと、③実質賃金の伸びがマイナスであったこと等は今年に課題として持ち越したのではないかと思います。

また、今年の景気の流れを見た時、注目すべき

明るい点多々生まれて来ているのではないかと思われます。

先ず第一点として昨年末の総選挙において安倍政権が大勝して政権の基盤も固まり、更にアベノミクスの継続も国民に信任されました。

次に、第二点としては原油価格の急落であります。これは国民生活への影響、貢献は大きく、また、我々業界にとっても原材料価格の引き下げ、エネルギーコストの削減は企業経営にとっても大きく貢献するものと思われます。

第三点は「産業の空洞化」の変化です。我が国の製造業の海外生産、現地調達動きは「産業の空洞化」を懸念されましたが、最近に至り、円安の影響もあってか海外生産から国内生産へのシフトの動きも話題として聞かれるようになって参りました。これは「産業の空洞化」を防止する流れとして我々プラスチック成形業界としても大歓迎です。

更に、我々連合会が行っている景況感調査においても、最近では今までに無い明るい流れもチラホラ見えるようになりました。これ等の現象は、今年のアベノミクスの進展、日本経済の再生に追い風となるものと期待する所であります。

我々プラスチック成形業界と致しましては、依然として厳しい経営環境の中にあります。今年一年、「技術革新による付加価値の創造」によって新技術、新製品、新素材、新市場の開発を目指し、また「仕事の絶対量の確保」と「安定した収益の確保」を目指して頑張るべく考えております。そして、我々業界としても些かなりともアベノミクスの進展、日本経済の再生に貢献致し、たく考える所存であります。

以上、簡単ではございますが今年の経済について思うところを申述べましたが、今年こそ業界にとっても、我が国経済にとっても明るい一年となります様、祈念する次第です。

最後に、本日までご参会の皆様方には、従来にも増して当連合会の事業、活動に対し暖かいご指導、ご支援、ご協力を賜りますようお願いを申し上げます。簡単、粗辞ではあります。年頭のご挨拶とさせていただきます。」

その後、来賓を代表して経済産業省・茂木化学課長様から、

「明けましておめでとう



茂木化学課長ご挨拶



賀詞交歓会

ございます。

昨年来、電力料金が高止まりするなど厳しい一面もありますが、各種マクロ数字面で上向きになってきており、有効求人倍率が高くなる等、輸出型企業中心に大企業の収益改善が図られているようだ。

今後も、アベノミクスの効果が続くように、法人税の引下げも予定されており、なるべく早い時期に税率が30%未満になるよう国として努めているところです。

また、26年度補正予算や27年度本予算を通して、1400億円の省エネ補助金制度を計画しています。丁度今は円安、金利安、原油安といった有利な状況下にあつて、投資のチャンスでもあり、是非皆様に利用して戴きたい。本年が皆様にとって良き年になりますよう祈念いたします。」とのご挨拶を戴きました。



乾杯する後藤副会長

続いて賀詞交歓会へ移り、後藤敏一郎副会長（中部日本プラ工業協会会長）の音頭で乾杯に移り、祝賀会が始まりました。

なお、17時からの賀詞交歓会に先立ち、15時より、第176回理事会と勉強会が開催されました。特に勉強会では、稲畑産業(株)のインド法人・稲畑インディアの大場憲一社長様から、「インド経済の動向と将来展望に関して」と題し、今や世界的に注目が増したインドの最新状況について、興味深い講演を戴きました。

最後、大野泰昭副会長（東日本プラ工業協会会長）の3本締めによる中締めの挨拶でお開きとなりました。



大野副会長の中締め

量から質への転換（四季）

世界全体のプラスチック生産量(2012年)は、表に示すように2億9千万トン弱であり、対前年比で3%の伸びを示している。

世界のプラスチック生産量(2012年)

	数量 (百万トン)	比率 (%)	対前年比 (%)
世界全体	288	100.0	3
アジア(日本を含む)	128	45	4
日本	11	4	0
中国	69	25	8
その他アジア	48	16	0
欧州	67	23	0
EU25+ノル ウェー+スイス	59	20	0
その他欧州	8	3	0
NAFTA	57	20	2
ラテンアメリカ	14	5	0
アフリカ、中東	21	7	5

(出所:水野雄彦, プラスチックス, p.3, 2014年6月)

地区別に見ると、経済発展の著しいアジアが約1億3千万トンと世界全体の45%を占めていることが注目される。中でも中国は6千9百万トンで対前年比8%でありアジアの伸びに大きく寄与している。また、アフリカ、中東も2千百万トンで対前年比5%と高い伸び率である。これは、産油国が原油で輸出するよりは、プラスチック材料にまで加工度を高めることで付加価値を上げる戦略にあり、汎用プラスチックを中心に生産量が増加していることによるものである。この地区で生産されたプラスチックは欧州を中心に世界中に販売されている。

ところで、我が国については1950年代に汎用プラスチックの国産化が始まり、1960年代以降の高度経済成長とともに急速に生産量を伸ばし、2度のオイルショックによる落ち込みもあったが、1997年には1,520万トンに達した。しかし、1990年代半ばから自動車、家電製品、電子機器などのエンドユーザーが海外生産シフトを進めたため国内生産量は横這いになり、さらに2008年のリーマンショックによる景気後退によって大きく減少した。その後も中国、アセアン、台湾、韓国などにおける樹脂プラント建設や増産の影響もあり、我が国の生産量は1,100万トン前後で推移している。現

在では同表のように我が国は世界全体の生産量に対し4%のシェアにとどまっている。また、国内の事情としても少子化による人口減少、高齢化による消費減少、省資源化やリサイクルによる材料使用量の低減などから、今後国内では量的拡大は期待しにくい状況にある。

しかし、2008年以降も年間生産量が1,100万トン前後で推移している事実は、新規用途の開発によって需要減少分を補っている結果であるとも言える。今後、我が国プラスチック産業としては、量(大量生産・多量消費)から質(高機能・高品質)へ発想を転換し、これまで培われた技術ポテンシャルを活かして高付加価値製品の開発に注力すべきである。そのための視点として、次のことが挙げられる。

国内には自動車、電子・電機、事務機器、精密機器、医療機器などのエンドユーザーは高機能・高品質製品を開発し、競争力のある製品を世界市場に販売している。これらのユーザーからのニーズに対応することで新用途への展開を期待できる。特に、最近ではLED関連部品、自動車の軽量化部品や電子部品、携帯端末機器、医療機器・器具など高度な成形技術を必要とする市場が生まれている。成形加工技術についても、過去におけるユーザーからの厳しい要求に応えることで培われた高度な成形技術の蓄積がある。その場合、我が国には材料、射出成形機、製品・金型設計、周辺機器などのすそ野の広い技術があり、これらの技術を融合することで独自製品を開発することが可能である。さらに、成形技能士検定を通じて育成された優秀な成形技能士も成形技術の開発に貢献すると思われる。

中国、インドなどの人口を多くかかえて発展が見込める市場が、我が国の近くに存在する。これら諸国では生活レベルの向上とともに製品への要求も高度化、多様化すると予測され、市場ニーズに応える製品開発をすることで新用途開拓の可能性もある。

これまで労務費が安いことで海外生産シフトが進められたが、アジア諸国においても賃金が上昇し我が国との賃金格差は縮小しつつある。また、カントリーリスクや輸出における円安メリットもエンドユーザー生産拠点の国内回帰を促進する要因になる可能性もある。(案山子)

事務局レポート

■第341回 理事会議事録

1. 日 時 平成27年1月15日(木)
14時30分～15時10分
2. 場 所 上野精養軒 3階「菊の間」
東京都台東区上野公園4-58
Tel. 03-3821-2181

3. 出席者

大野 泰昭	大井 英一	大塚 一郎
鈴木 幸雄	安達 七郎	川野 幸博
嶋田 修二	内藤 隆夫	山下慎一郎
平塚 隆文	上村 俊彦	齋藤 森作
滝口 裕	福田 晴通	肥後 武重
腰越 稔	小松 幹也	関根 忠
小野 勝彦	小林 輝男	武田 久徳
池添 亮	高橋 廣	

以上出席23名(理事総数31名)

古澤 正弘 谷 和雄 野邊弘一郎
(以上監事3名)

4. 会長挨拶

新年あけましておめでとうございます 本年も宜しく願っています。

お正月が何を意味するかは知らないとしながらも「これだけは判っている」と井上靖が書いております。「人間の一生が少々長すぎるので神様がそれを365日ずつに区切ったのだ。そして、その区切り区切りの階段で人間が一休みするということだ」『元旦』に一年365日の区切りを人生という階段の一段一段に例えれば、5年10年の区切りは途中に設けられた踊り場だろう。迎えた年は戦後70年の節目にあたる。多くの人々がそこにたえず、来し方を顧み、行く末を見つめるはずである。

作家の考えるように、年ごとの階段が「神さま」の創造物とすれば、踊り場は「過去を忘れるな、振り返れ」と、人間みずから戒めて設けた知恵の創造物に違いない。この詩が述べて



いるように、私たちは子供たちに夢を託すためにも過去を忘れないことが大事だと思います。

今年は戦後70年にあたる年であり、歴史を振り返ってみれば節目の年になります。自民党が結党して60年、日韓国交正常化から50年、先進国のサミットがスタートして40年、プラザ合意は30年、世界貿易機関(WTO)の発足から20年、京都議定書が発効して10年になるそうです。それぞれ内政・外交・経済の枠組みを形作ってきた出来事です。そして今また世界も日本も動いています。戦争への反省を踏まえ、平和国家としての70年の歩みを改めて確認する必要がある。視線は過去でなく未来に向けられなければならないと結んでいます。

今年が羊年です。羊年は思い切った改革が求められる年回りである、と言われていました。未来に向けた改革が始まることを多に期待したいと思います。

理事の皆様には審議していただく事項が多数ございます。また、本日は理事会・講演会・新年賀詞交歓会と続きますので、円滑な進行をお願いしまして挨拶にかえさせていただきます。

5. 議事録署名人

議長は、定款第34条により、同人と谷和雄監事が議事録に捺印する事を説明し了承された。

6. 議 事

議題1. 経過報告

- (1) 役員会等の開催

- 11月13日 第340回理事会
東プラ厚生年金会館
- 12月17日 第170回幹部会
東京スクエアガーデン 6 F会議室
- (2) 部会・委員会の開催
- ① 技能検定運営委員会
- 12月6日 3級検定水準調整、実技試験
板橋校
- 12月8日 ブロー水準調整会議
東日本協会 会議室
- 12月9、10日 ブロー機械説明会 タハラ
- 12月12日 合格証書伝達式 東プラ健保会館
- 12月15～26日 ブロー実技試験、採点
タハラ
- ② 能力開発推進委員会
- 11月15、16日 成形技術講座③、④ 板橋校
- 11月22、23日 成形技術講座⑤、⑥ 板橋校
- 11月24日 成形技術講座(補講) 板橋校
- ③ 経営改善強化部会
- 11月28日 役員会・忘年会
東日本協会 会議室
- ④ 青年経営研究会
- 11月20～23日 マレーシア視察旅行
大栄マレーシア他
- 12月16日 役員会・忘年会
東日本協会 会議室・「築地さいしゅん」
- ⑤ APM会
- 12月8日 運営委員会 東日本協会 会議室
- (3) 支部会等の開催
- 11月25日 墨東支部会
東武ホテルレバント東京
- 12月2日 都心支部会 「築地 植むら」
- 12月9日 城北支部会 上野「韻松亭」
- (4) 連合会
- 11月27日 技能検定推進委員会
ホテル エドモンド
- 12月19日 年末挨拶回り
経済産業省・化学課ほか

議題2. 会員の入会・退会承認の件

- (1) 入会の部
正会員
①会社名 泰興物産株
城北支部

所在地 東京都立川市錦町6-18-1
業種 成形加工

②会社名 日本航空電子工業株
都心支部

所在地 東京都昭島市武蔵野3-1-1
業種 コネクター製造

(2) 退会の部
賛助会員

①会社名 (株)テラバイト (日本ユニシス関
連)、流動解析事業からの撤退

議題3. 平成27年賀詞交歓会役割分担等の件

別添資料1の通り、本日のスケジュール、新春講演会、参加者一覧について専務理事より概略を説明し、議長から議場へ諮ったところ異議なく、承認された。

議題4. 第47回通常総会の件

標記通常総会の開催について、下記の通り専務理事から提案した。

平成27年5月21日(木) 上野精養軒
上程議案(案)は以下のとおり。

- ①平成26年度 事業報告、決算報告承認の件
②平成27年度 事業計画案、予算案承認の件
※役員改選は平成28年5月

【その他報告事項】

連合会行事

・賀詞交歓会の開催

日時：1月29日(木) 第一ホテル東京
15時～第176回理事会、勉強会

4階「フローラ」

17時～祝賀会4階「ブリマヴェーラ」

※来賓、会員合わせて90名参加予定。東日本からは10名が参加。

- ①今後の理事会等行事スケジュール
②本部の12月末残高試算表
③会員アンケート調査結果
④経産省。26年度補正予算：省エネ補助金、モノづくり試作・開発補助金

以上をもって、第341回理事会における審議を終了し、議長は15時10分、理事会の閉会を宣した。

業界OBの皆様の年金制度継続を図ります

当基金では、昨年4月施行の厚生年金基金制度法改正に対し、東日本プラスチック業界のOBの皆様の老後安定に貢献すべく、持続可能な制度設計へ抜本改訂を行ったうえで年金制度を継続する方針です。

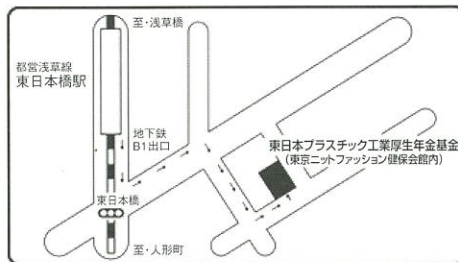
現在、加入中の事業所様の引続きのご支援をお願い申し上げるとともに、未加入の事業所様におかれましても、新制度へのご加入をご検討賜りたくお願い申し上げます。

法改正の内容や当基金の検討状況など、ご質問等がございましたら当基金までお寄せください。

東日本プラスチック工業厚生年金基金

理事長 宮越 健
常務理事 栗城 靖

住所 〒103-0004 東京都中央区東日本橋1-5-13
東京ニットファッション健保会館2階
TEL 03-3862-4308 FAX 03-3851-7976



東日本プラスチック製品工業協同組合

～今後とも、会員企業のお役に立つよう下記の事業に積極的に取組んでまいります～

- 各種ユニフォーム・事務服、安全靴、タオル等幹旋
- ETCカード事業
- 団体医療共済保険、PL保険、団体生命保険
- 廃プラ事業
- プラスチック手帳他

上記事業を一般社団法人 東日本プラスチック製品工業協会と連携して実施しています。ご用命は下記へ。

〒104-0045 東京都中央区築地3-12-5
電話 03-3541-4321 Fax 03-3541-4324
代表理事 嶋田 修二